

みぶ町政だより



4

月号

昭和48年 4月24日発行

発行所 栃木県壬生町役場（毎月24日発行）

昭和34年 9月30日第三種郵便物認可一部9円



—壬生小で—

今日から一年生

さくらの咲く4月

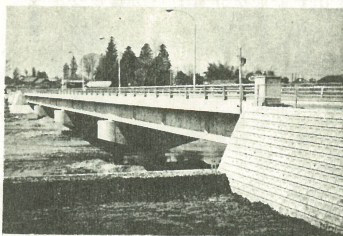
今日は、うれしい入学式。ほくも、わたしも今日から一年生

管内の各小学校では、4月9日に入学式が行なわれました。今年の入学児童数は、合計で403人がそれぞれ7つの小学校に入学しました。

今月の人口

| | |
|-----|--------|
| 総人口 | 27,825 |
| 男 | 13,866 |
| 女 | 13,959 |
| 世帯数 | 6,423 |

地蔵橋が完成



福和田舎と上稲下馬木を結ぶ水久橋がこのほど完成し、四月十八日午前十二時三十分、町地元関係者約八十名が出席し、地元の人たちの見守る中で渡りそめが行なわれました。

渡りそめは、花火を各団に、知事代理の鏡野土木部監理課長、佐藤町長、石川昭三期成同盟会長の三人の手で、テープにはみみが入れられ大鳥堂十一家の親子二匹、稲葉小児童による鼓笛隊、その他稲小、稲中の児童生徒計七〇名が加わりました。

また、地蔵橋のお地蔵様の祭りもこの日に合せ行われ、おはよしの山車がくり出されるなど、渡りそめのふん開きをいっそう盛り上げました。

この橋は、地蔵橋と称し、以前には巾三・六メートル、長さ二七・九メートルの本橋で、老朽化のうえ四十六年八月の台風で橋げたの一部がなくなり、通行が不可能となったため、県で昨年四月工事を始め、総工費約一億二千万円をかけて、幅八メートル、長さ三三・五メートル開閉には非道が設置され、また橋上には水銀灯も増え、明るいきりばな水久橋がでさうりになりました。



五十組のカップル誕生

結婚相談所

農業後継者援助人感謝状贈呈式の記念品や佐藤町長自筆の「寿」並びに新郎新婦を祝福する会が、三月三十一日、中央公民館で盛大に開かれました。

この日は、三年前から農業委員会が中心となり、農業後継者対象とした結婚相談所（所長大久保武一農業委員長）が発足し、これまで五十組のカップルが誕生しました。そして四十七年度さらに五十組の縁結びを行いました。

この日、午前七時から五十組のカップル五十九人の仲人さんを選び、大久保所長のおいさぎに始まり、続いて結婚にあっせん成立させた相談員さんに感謝状が贈られた。また、新郎新婦には、金盃



町長から色紙を贈られる新郎新婦

移動図書館

—だれでも利用できます—

5月14日 中央公民館 13時30分
 " 稲葉公民館 14時30分
 " 南大岡支所 15時00分

いずれも停車時間は40分です。

交通安全を願ってパレード

春の交通安全運動が四月六日から十五日までの十日間におわって全町一斉に行なわれました。

本町でも、町民総ぐるみ運動として実施し、交通安全協会、警察署、学校、PTAとして交通安全母の会の人たちの協力により、運動パレードに努める成果をあげました。

特に各学校では、この交通安全運動を無事故で終ることを願って、また通行者の安全運歩を認識

春の交通安全運動おわる

春の交通安全運動が四月六日から十五日までの十日間におわって全町一斉に行なわれました。

本町でも、町民総ぐるみ運動として実施し、交通安全協会、警察署、学校、PTAとして交通安全母の会の人たちの協力により、運動パレードに努める成果をあげました。

特に各学校では、この交通安全運動を無事故で終ることを願って、また通行者の安全運歩を認識

交通安全に 交通指導員隊長 渡辺大吉さん

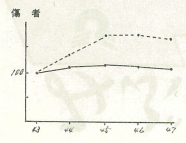
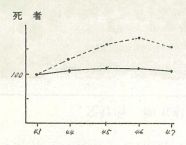
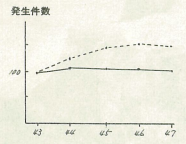


町のみならず、交通問題について特別の御力を頂き指導員を代表して厚くお礼申し上げます。

一 承知の通りに交通事情は日増しに悪化し、今や交通戦争といわれる現代社会、我々指導員の気持をわかって、皆様を幸せを願って、雨・風の日に、お勤めに行かれる皆さんへ、お勤めに早く帰る、急ぐこと、違反すること、決してお勤めにつかぬ、安全を守ります。私たちが協力し、力を貸せば幸と思ひます。

昭和43年を100とする交通事故の推移

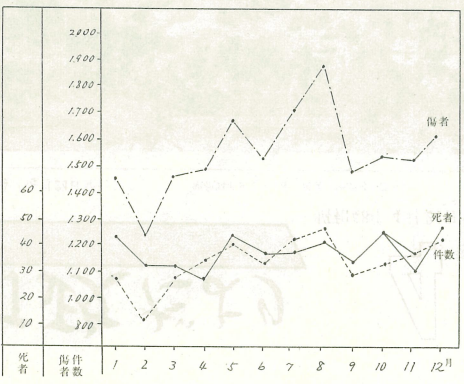
--- 県
 —— 全国



昭和四十七年の事故統計から

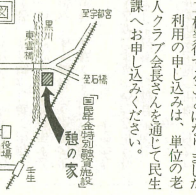


昭和47年中の交通事故発生状況



老人憩いの家 使用料を改正

老人憩いの家は四十五年開設以来多くの皆様に有料で利用いただいておりますが、三月の定例課会で、老人クラブ会費が団体で二十人以上、利用する場合、使用料を無料にする事が決まりました。また、老人に対する無料券も年一人につき一枚発行することになりました。利用の申し込みは、単位の老人クラブ会長さんを通じて民生課へお申し込みください。



身体障害者の補装具の個人負担を無料に

身体障害者が補装具を必要とする場合、従来個人負担がありましたが費用を軽減するため、四月より町が予算の範囲内で全額補助をすることになりました。この場合の申請は、従来通り民生課で行ないますので申し出てください。

交通安全などに一役 部落総出でこさ切り



こさ切りする上坪の人たち

藤井上坪自治会(会長寺内義孝氏)では、三月二十三日早朝から自治会の人たち総出で、道路や圃場、神社などのこさ切りならびに清掃を行いました。

この作業は、二十一年前より五年ごとに行なわれており、最初は当時食糧増産が言われていた時で、田に水をスラムスに、あるいは干氈の主産地であるため、干氈の土場所が日かげになるためなどで行なわれ、未でしたが、最近では道路が狭く、けがが多く、交通安全、防火、火災予防などの

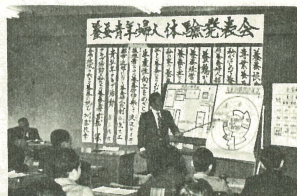
ためにも、また、道路整備のために大きな効果をおよぼすことを行なっているものです。このこさ切りで上坪自治会がすっかり明るくなりまし。

藤井の倉井さん優秀賞

全国養蚕青年体験発表大会

農林省並びに全国養蚕業協同組合連合会主催による第十七回全国養蚕青年体験発表大会が、二月八日、東京代々木青年会館で開かれ、藤井の倉井寛氏(三十八歳)が栃木県代表として参加し、養蚕(一)をテーマとして体験発表の結果、優秀賞を受賞しました。

同氏は先の県養蚕青年研究会クラ協議会主催による昭和四十七年度養蚕青年部体験発表大会(二月九日)においても、青年の部で最優秀賞を獲得して、今後、本町はもとより、本県の養蚕業振興の中核者として大に期待がもたれております。



養蚕青年部体験発表大会

母と子の交通安全教室ひらく

さる三月十四日、第一保育所で園児の母親五十二名を招き、母子の交通安全教室が開かれました。この交通安全教室は、町が幼児の事故が多いため、この対策には家庭でのしつけが第一と、果敢交通安全対策課の協力を得行なったもの。

この日、会場の第一保育所では母親たちの見守る中で、正しい歩行のしかた、「信号の見方」、「横断歩道の渡り方」などが指導されました。母親と手をつなぎ、横断歩道の渡り方など、もしもしに勉強しました。



交通安全教育を受ける園児たち

- 青年海外派遣団員募集
- 栃木県では、次代に備う本県青年の代表をヨーロッパ諸国に派遣し、青少年活動、産業文化等の視察研究、また青少年との交際をすることにより国際的視野を広め国際親善につとめることと、帰国後、豊かな住みよい郷土づくりの推進力になつてもらうこと等の要領で派遣団員を募集しています。
- ◆派遣員 四十四名
 - ◆期 日三週間(九月二十一日〜十月十日)予定
 - ◆年齢資格 満十歳以上三十歳未満の男女
 - ◆経 費 本人負担約十万円
 - ◆申込期日 五月七日(月)
 - ◆申込先 町教育委員会事務局
- その他くわいことは、栃木県民生部青少年室または町教育委員会事務局へお問合せください。



町長から記念品を受ける立憲者代表

私たちの国保

町長から記念品を受ける立憲者代表という名目もなく、交通戦争という名の事故による尊い生命の犠牲の増加は驚異的です。こんなとき、国保が果たすべき役割は重要である。今、各役割は重要である。みなさんが平素から掛金を

を出し、病状やけがのときに助け合おうというのが国保の趣意ですが、当然、保険による治療を受けられます。ただし治療費は国保がたがえてくれます。交通事故の責任はすべて加害者であり、その治療はあくまで加害者が負担しなければなりません。しかし、交通事故

中学校で立志式

管内の三中学校で三月二十日立志式が行われ、十七日立志者が行われました。

(一)立志式は、満十四歳を迎えた少年少女(中学二年生)たちの書で、元服に似た儀式で、十四歳という年齢は、これから青年期にさしかかり、おとな(生まれかわる第二の誕生)の時期であり、その成長を祝い、い、あわせて本々の強い自覚をうながすという意味で、この立志式にこれからの人生の座り銘にすることを、ひとりひとりの誓いを立てました。

式後、保護者の記念撮影が行われ、立志式が完了しました。

催されたもので、この日式場には、保護者も招き、町長はじめ多数の来賓の出席も盛大に開かれ、町長から立志式健康を目標に、おとなの仲間入りする自覚と責任をもつて進んでいくこと、と勵ましの言葉があり、全員に、自覚と書かれた色紙が贈られました。

式は、来賓の数々の励ましの言葉があり、立志式代表の力強い誓いの言葉が述べられ、生徒たちは、立志式を機にこれからの人生の座り銘にすることを、ひとりひとりの誓いを立てました。

式後、保護者の記念撮影が行われ、立志式が完了しました。

保護者が清掃作業奉仕

第三保育所の保護者のみなさんが、子どもたちが一年間お世話になった保育所を感謝の意味で、三月十七日、卒園を前に保護者だけで清掃作業を行いました。そして、見送るほどきれいなまな新入児を迎える事が行なわれ、職員一同感謝しております。



保護者が清掃作業奉仕

チビッコ あつまれ!

ボーイスカウトカブ隊員募集

二十日までは、申込場所へお問合せください。

◆申込期日 五月七(電話)一〇〇七五番

◆募集場所 壬生町教育委員会内 社会教育係(電話)一一二三四番

◆募集場所 壬生町教育委員会内 社会教育係(電話)一一二三四番

◆募集場所 壬生町教育委員会内 社会教育係(電話)一一二三四番

ボーイスカウトの野外訓練を特殊なものと想われるひととあわせてしよう。しかし、大切なのは訓練自体が目的でないということ。

この日の訓練を通して、すぐれた技能と感覚をやし、どのようなときに正しい判断をくだせ、他のひとびとのために尽る公民を育てることがスカウト教育の目的です。

下都賀第一団も皆様の支援により、今年で十周年を迎える事が出来ます。この機会に、次の要領で団員を募集いたします。

◆募集員 三十名(申込願縮切) 面接入隊

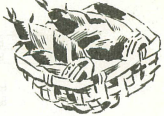
◆募集年齢 小学二、四、五年生(男子に限る)

◆申込場所 壬生町教育委員会内 社会教育係(電話)一一二三四番

◆募集場所 壬生町教育委員会内 社会教育係(電話)一一二三四番

◆募集場所 壬生町教育委員会内 社会教育係(電話)一一二三四番

お知らせ



晩霜警報に注意

おそ霜よる農作物の被害は毎年多いものです。しかし、この災害は、事前予知でき、しかも有効な手段方法をとれば未然に防止することが出来ます。

そこで、役場経済課では、晩霜警報が出た場合は、花火を打揚げてみよさんにお知らせし、すまやさんか防止策を講じて、被害を未然に防止してください。

◇打上り時間 四月十六日から五月十五日まで
福和田橋付近

◇時間 午後八時
(連続三夜打上)

◇その他 宇都宮県白よりラジオその他で、注意喚起発表されます。

5月の納税 お忘れなく 国民年金 4・5・6月分

かんがい電力使用のお知らせ

かんがい用電力の使用時期が近づき、使用申込みが一時集中するの、次により申込み下さい。

◆使用(悪悪)の申込み
希望日の五日から七日前に申込みください。同時に、終了日もあらかじめ決めて頂きます。

(注) 終了日を決める際は、幾分余裕をみてお決め頂ようお願いいたします。

◆使用終了(休止)の取扱い
使用申込みの際、終了日(休止日)が決めて頂いており、その日(休止日)が決められておらず、天候などの理由で終了日を要変更する場合は、七日前までに申出願します。

◆使用希望日の二、三日前にお伺いすることありますので、早めに機械類の取付準備と電塞の力をぎをあげておくとお願ひします。

「東京電力株橋木業所」

建設課へ
建築確認事務は

昭和四十八年四月一日から後場事務分掌規則の一部改正により、次の事務が企画課から建設課に移りました。

一、建築確認申請事務
二、都市計画法(開発行為申請等の事務)に基づく事務

現在使用されている中央公民館をもっと便利に使用出来るように、改修工事を進められることになりました。

そのため、六月一日から八月末日まで使用出来なくなりまして、ご理解ください。

免許更新時講習

五月の運転免許証の更新時講習の日程は次のとおりです。

○十一日 午前十時から
○二十五日 午後十時から

会場は、いずれも中央公民館

廃犬引き取り日

廃犬は、ほなさないで廃犬引き取り日に出してください。

○日程 五月九日、二十三日
役場および時間
場所および時間
南大前所 九時三十分まで
稲葉支所 十時まで

妊婦検診

○とき 五月二十五日
午後一時から
母子健康センター
○該当者 壬生町に居住する全妊婦の方



名所巡り

150

善薩様の里帰り

國道四号線が小山市の繁華街に光道を生通りと呼ぶれた街道である。壬生の住民は誰と知ってある通り明治維新に江戸幕府が終りを遂げる迄は壬生の宿は萬寿寺後守、万石の城下であった。ところで、今の壬生中学校の敷地が壬生城の本丸だった。壬生町の南の入口は江戸から十四里(約九十四キロ)目の一里塚も残っている。道の両側には日光杉並木に連がる杉並木がところどころ昔日の面影を残して立っている。この街並を眺めながら歩いていくのは、杉の宿の入口で合せて鹿沼は、杉の宿の入口で合せて鹿沼。今市、日光に連がる。

壬生町と橋木町の間に田圃粟村七ツ石の部落がある。鎌倉の昔目連入が六人の弟子達を近隣の河原で建設法を行った時、腰を下した七ツ石の石に因んで七ツ石という地名が出来たと伝えられている。

この石は日蓮宗の寺や信者にとりては聖石として壬生町の土田にある土田寺や隣村西の方の法門寺、鹿沼、藤原の日蓮の寺々では石として境内に安置されている。七ツ石の小事で松原という地名の所がある。この辺りは旧街道の名残りが濃厚に残っている。処で

道の両側には幾代もある杉の大木が何本ある。道の両側には田圃もあって夏とすると蛙の声もにぎやかな場所である。南北朝の悲しい伝説を伝える観音の松、義に厚い武士の物語を伝える布衣掛の松も近くにある。壬生氏最後の領主壬生義隆の後室と婚んで天女成死した臣のために供養したことから地名も七ツ石にある。お釈迦様が滅して後五十六億七千万年間は無仏の時代で、五十六億七千万年たつと弥勒菩薩が此の世に出て衆生を濟度するといふ世界は云われていた。五十六億余年の間は地蔵菩薩が司る。七ツ石村にいつ頃建立されたものか記録無いが、寮がありその境内に数段あつたかな地蔵菩薩がお祀りされて鎮座しました。恐らく昔昔語が書かれて地蔵菩薩が庶民の中に入り込んだ平安末期の頃なのかも知れない。そう云えばこの地蔵菩薩が鎮座した境内に接したところが旧奥州街道の跡地と称する道筋の背地が今も残っている。前述した通り七ツ石、小倉太一氏の前に義経の布衣掛の松もあり、その昔には奥州街道七ツ石のこの辺を通過していたのかも知れない。今市の追分地蔵にても神主退分地蔵にしても道端に鎮座して旅人の交通安全と地域住民の安寧を守護されたものらしい。

一 次等へ続く一 筆者大垣